

令和7(2025)年9月 卒業生アンケート結果(年度別比較)

- 1 目的 卒業生の状況把握、社会に出て感じる本学の教育について意見を聞き、今後の教育改善に活かすことを目的とする。
- 2 主な内容 (1)就職状況 (2)本学への思い (3)在学中の取り組み (4)必要な力
- 3 調査時期、方法 令和7(2025)年8月12日～8月31日、郵送で依頼し、グーグルフォームにて回答
- 4 調査主体 キャリア支援委員会
- 5 回答数

四大 教育福祉学部	令和4年度(令和5年3月卒)			計		
	卒業者	回答者	回答率	卒業者	回答者	回答率
子ども学科	76	14	18.4%	76	14	18.4%
スポーツ教育学科	29	4	13.8%	29	4	13.8%
計	105	18	17.1%	105	18	17.1%

参考(過去の回収率)		
令和3年度	令和2年度	
27.6%	10.9%	
9.1%	12.5%	
22.5%	11.5%	

短大 ライフデザイン学科	令和4年度(令和5年3月卒)			計		
	卒業者	回答者	回答率	卒業者	回答者	回答率
児童学コース	28	2	7.1%	28	2	7.1%
健康福祉コース	14	2	14.3%	14	2	14.3%
キャリアデザインコース	14	3	21.4%	14	3	21.4%
計	56	7	12.5%	56	7	12.5%

令和3年度	令和2年度	
26.9%	16.1%	
25.0%	35.7%	
16.7%	16.7%	
23.3%	20.6%	

四短 合計	161	25	15.5%	161	25	15.5%
-------	-----	----	-------	-----	----	-------

22.9%	15.0%	
-------	-------	--

【I】自身について

1. 現在の状況 I-(2)

四大 教育福祉学部	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
① 正社員・職員	18 100.0%	16 88.9%	10 83.3%	44 91.7%
② 非正職員				
③ パート・アルバイト		1 5.6%	1 8.3%	2 4.2%
④ その他		1 5.6%	1 8.3%	2 4.2%

短大 ライフデザイン学科	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
正社員・職員	4 57.1%	10 71.4%	11 84.6%	25 73.5%
非正職員				
パート・アルバイト	2 28.6%	2 14.3%	1 7.7%	5 14.7%
その他	1 14.3%	2 14.3%	1 7.7%	4 11.8%

2. 現在の仕事の満足度 I-(3)

四大 教育福祉学部	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
① 非常に満足している	3 16.7%	7 38.9%	5 41.7%	15 31.3%
② ほぼ満足している	11 61.1%	8 44.4%	6 50.0%	25 52.1%
③ やや不満である	3 16.7%	2 11.1%	1 8.3%	6 12.5%
④ 不満である	1 5.6%	1 5.6%		2 4.2%
⑤ 無回答				

短大 ライフデザイン学科	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
非常に満足している	2 28.6%	3 21.4%	2 15.4%	7 20.6%
ほぼ満足している	4 57.1%	9 64.3%	7 53.8%	20 58.8%
やや不満である	1 14.3%	1 7.1%	1 7.7%	3 8.8%
不満である			2 15.4%	2 5.9%
無回答		1 7.1%	1 7.7%	2 5.9%

3. 現在の勤務先は卒業直後の就職先 I-(4)

四大 教育福祉学部	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
① はい	15 83.3%	18 100.0%	11 91.7%	44 91.7%
② いいえ	3 16.7%		1 8.3%	4 8.3%
⑤ 無回答				

短大 ライフデザイン学科	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
はい	4 57.1%	12 85.7%	10 76.9%	26 76.5%
いいえ	3 42.9%	1 7.1%	2 15.4%	6 17.6%
無回答		1 7.1%	1 7.7%	2 5.9%

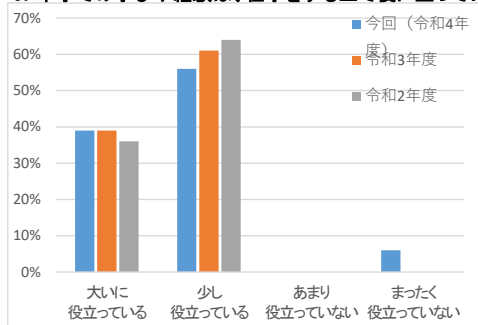
4. 転職の理由(直前の設問で②と回答した者のみ対象)※自由記述 I-(5)

大	同棲のための引っ越し
大	スポーツ関係の仕事に就きたかったから
大	正規職員として採用されたから。
短	職場の都合等で異動した
短	就職した会社の部署が合わなかったから

- ・現在の仕事については、①非常に満足している②ほぼ満足しているを選択した卒業生は四大ともに約7割以上だった。
- ・全体の回答率が低いため、回答率をあげる工夫が必要である。

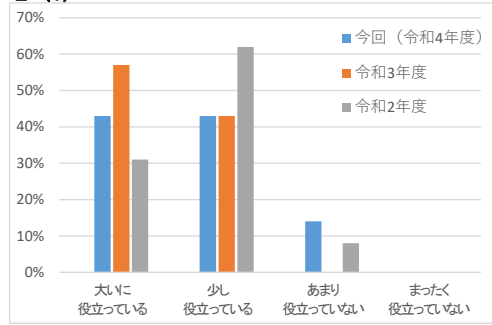
Ⅱ 仕事をする上で大切な学びや経験について

5. 本学での学びや経験は、仕事をする上で役に立っていますか



四大教育福祉学部	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	平均
① 大いに役立っている	39.0%	39.0%	36.0%	38.0%
② 少し役立っている	56.0%	61.0%	64.0%	60.3%
③ あまり役立っていない	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%
④ まったく役立っていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ⅱ-(1)



短大ライフデザイン学科	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	平均
大いに役立っている	43.0%	57.0%	31.0%	43.7%
少し役立っている	43.0%	43.0%	62.0%	49.3%
あまり役立っていない	14.0%	0.0%	8.0%	7.3%
まったく役立っていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

6. 仕事をする上で役に立っている能力や資質は何ですか。(直前で①or②と回答した方のみ)※複数回答可 Ⅱ-(1)

	四大教育福祉学部	今回(令和4年度)
① 専門的知識・技能	11	61.1%
② 課題発見力・解決能力	4	22.2%
③ 判断力	3	16.7%
④ 表現力	6	33.3%
⑤ 倫理観	1	5.6%
⑥ 主体性	1	5.6%
⑦ 協調性	5	27.8%
⑧ コミュニケーション能力	7	38.9%
⑨ 学び続ける姿勢	3	16.7%
⑩ 情報活用能力	3	16.7%

	短大ライフデザイン学科	今回(令和4年度)
専門的知識・技能	6	85.7%
課題発見力・解決能力	1	14.3%
判断力	2	28.6%
表現力	1	14.3%
倫理観	2	28.6%
主体性	0	0.0%
協調性	2	28.6%
コミュニケーション能力	3	42.9%
学び続ける姿勢	0	0.0%
情報活用能力	2	28.6%

7. 仕事をする上で役に立っている資質や能力は大学時代のどの活動で身につきましたか ※複数回答可 Ⅱ-(3)

四大教育福祉学部	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
① 講義(学外実習を含む)	10	10	7	27
② 学外実習	7	6	3	16
③ ゼミ・卒論	9	5	2	16
④ 資格取得	4	5	1	10
⑤ 部・サークル活動	3	3	1	7
⑥ ボランティア	6	3	3	12
⑦ アルバイト	7	6	6	19
⑧ 趣味	0	1500.0%	8.3%	2.1%
⑨ インターンシップ	1	0	0	1
⑩ その他	0	1	0	1

短大ライフデザイン学科	今回(令和4年度)	令和3年度	令和2年度	計
授業	6	7	7	20
学外実習	3	3	5	11
ゼミ・卒論	1	2	1	4
資格取得	0	1	5	6
部・サークル活動	1	1	1	3
ボランティア	0	0	2	2
アルバイト	2	2	1	5
趣味	1	0	0	1
インターンシップ	0	1	0	1
その他	0	0	0	0

- ・ 本学での学びや経験は、仕事をする上で役に立っているかの設問に対し、「大いに役立っている」「少し役立っている」の回答が、大学は9割以上、短大は約9割だった。
- ・ 仕事をする上で役に立っている能力については、四大ともに①専門的知識・技能や⑧コミュニケーション能力の評価が高く、仕事をする上で役に立っている資質や能力は、四大ともに大学時代の①講義の評価が高かった。

令和7年(2025年)9月実施 卒業生へのアンケート 総括

令和5年(2023年)3月に卒業した令和4年度卒業生(大学105人、短期大学部56人)を対象に、現在の状況を把握するとともに、社会人の立場から本学の教育についての意見を求めるアンケートを実施した。

この卒業生アンケートを実施するにあたり、毎回、回答率の低さが課題となるため、今回は、お盆前に郵送で依頼し、グーグルフォームで回答してもらうこととし、質問内容もできるだけ精査し、短時間で回答できるように工夫した。

しかしながら、卒業後2年半が経過していることから回答率は16.1%と期待以下の結果であった。

質問内容については、7月に実施済みの「就職先へのアンケート」と同じ質問も折込み、比較できるようにした。キャリア支援委員会での分析結果を以下に示す。

1. 就業満足度について

大学・短期大学部ともに「満足している」「やや満足している」との回答が8割を超えており総じて高い満足度が得られた。過去3年間を通して、不満と回答する回答はごく少数にとどまり、キャリア支援に携わった身としてはホッと胸をなでおろすところであるが、あくまで回答者の満足度であって、非回答者の状況を知りたいところである。

2. 現在の勤務先について

「現在の就職先が、卒業直後の就職先である」と回答している卒業生が大学・短期大学部ともに過去3年間での最低となっている。しかしながら、転職者6人のうち5人が転職理由を記載しており、その内容が「止むを得ない」もしくは「積極的な転職」と受け止められることと、あくまで回答者のみのデータであって卒業生全体のデータではないため、回答率の上昇が強く求められる。

3. 本学での学びや経験と仕事との関連

在学中の学びが仕事に役立っていると回答した割合は大学で97.7%、短期大学部で85.8%であった。過去3年間を見ても、「まったく役立っていない」と答えた卒業生が大学卒で1人、「あまり役立っていない」と答えた卒業生が短期大学部卒で2名であることは、一定評価できると考える。

4. 仕事に役立っている能力や資質について

大学・短期大学部ともに「専門的知識・技能」「コミュニケーション力」が多く挙げられ、「専門的知識・技能」は回答者全体の約7割、「コミュニケーション力」は回答者全体の約4割が「仕事をする上で役に立っている」と答えている。

ところが、7月に実施した就職先アンケートで、企業や学校・園に「本学卒業生が身につけている資質や能力」を尋ねたところ、四大・短大ともに「協調性」「倫理観」が高い評価を得ており、本学卒業生の認識と就職先の捉えにズレがあることが明らかになった。ちなみに「専門的知識・技能」を本学卒業生が「十分身につけている」と答えた企業・学校・園は8.3%、「やや身につけている」が49.5%で、両方併せても57.8%と決して高い評価をいただいているとは言えない状況にある。二つの調査結果から見てきたこの課題をFD委員会等で検討するよう提案したい。

今回のアンケートで、仕事をする上で役に立っている資質や能力は、「講義で身についた」と回答している卒業生が、大学が59.2%、短期大学部が58.8%と圧倒的で、非常に喜ばしい結果と受け止めるとともに、引き続き講義内容・形態の工夫・発展が期待される場所である。

また、講義以外にもゼミ・卒論や学外実習、さらにはアルバイトやボランティアなどの学外活動などの経験が「仕事に役立っている」との回答が多く寄せられ、それらの意義を改めて確認できた。

5. 課題と今後の対応

3に記したように、「在学中の学びが(十分に)役立っていない」と回答した卒業生が少数とはいえ存在しており、より実務に直結するカリキュラム改善やキャリア教育の強化が求められる。

一方で、全体的に高い就業満足度や、学習・経験の有用性を感じている卒業生が多数を占めており、大学教育・支援体制が一定の成果を挙げていることが明らかとなった。